

環境試験分野で躍進 東西工業(藤枝市)

断熱パネル製造 世界企業に納品

システム断熱パネル製造の東西工業(藤枝市)は、企業が製品を開発する際に不可欠な環境試験の分野で躍進している。トヨタ自動車、アップル(米国)、サムスン(韓国)といった世界企業に納品し、国内外からの引き合いが絶えない。医薬や次世代センサーなど開発競争が激しい産業を中心に今後も新たな需要の獲得が見込めるとして、市内に新工場を建設して生産体制を大幅に拡充する。

環境試験はさまざまな気候下で性能を確認する、製品開発の最重要工程の一つ。試験室内の高温や低温を維持するために断熱パネルが欠かせない。

同社は硬質ウレタンをパネル内に高圧発泡させる手法で飛躍的に断熱性を高め、マイナス50度プラス150度の耐性を実現した。極寒の南極昭和基地で隊員が居住するプレハブにも50年以上採用され、業界で知られる存在に。寒暖差が極端に激しいモンゴル砂漠の実験室や宇宙航空研究開発機構(JAXA)のはやぶさ2試験室にも納入実績があり、トヨタ自動車からは独占的に受注している。

1969年の冷蔵庫製造を皮切りに技術開発を繰り返

生産拡充へ新工場 拠点集約

返し、特許も複数取得してきた。耐熱性、遮音性、耐圧性、密閉性に優れた製品を送り出す。杉山友紀社長(47)は「環境試験はあらゆる製品の安全安心の根幹」と述べ、ものづくりを支える事業に自負をのぞかせる。農作物の品種改良、漁業養殖、アスリートの高地トレーニングといったより幅広い場面で応用可能と展望する。

売上高は20年前の6億円から18億円(2024年9月期)へと伸長し、新工場が完成する26年9月期は30億円を見据える。

新工場は同市の家具工業団地内に約2万平方メートルを確保した。事業費50億円。現在の3拠点を集約し、本社機能も移転する。

(経済部・河村英之)



「信頼獲得は高品質製品を送り出すこと」と話す杉山友紀社長
11月初旬、藤枝市



2026年に完成予定の新工場